

白井市立白井第二小学校(千葉県)



1. 地域特性

白井第二小学校は、古くからの農村集落に立地する歴史ある学校である。前身は明治7年開校の小学校まで遡る。校地は市街化調整区域に含まれており、周囲には農地が点在している。道路を挟んだ隣地には高齢者施設、近隣の工業団地には規模の大きな建物も混在する。



エレベータシャフトと耐震壁ブレース

2. 事業の経緯

昭和11年に現在の場所に移転して以来、歴史のある学校で地域住民との結びつきは強い。今回の事業は、昭和52年築の校舎の耐震補強と普通教室のオープン化を中心に広範囲かつ総合的な整備を行ったものであり、本校・分校の統合という節目の年に実施された。学校は保護者や地域住民に対して十分に説明をし、子どもたちや保護者の不安を解消するように努めた。平成13年度に基本設計、平成14年度に実施設計、平成15年度に施工が行われた。工事は全て夏期休業期間中に行われた。工期短縮、工費削減のためカバーサッシ工法が採用され、仮設プレハブは建設せずに工事期間中教材等は体育館で保管した。



オープン化された教室(左)と可動間仕切りを閉じた状態(右)



1階廊下（改修前）



コンピュータ教室



図書室（改修後）

3. 事業の内容

○耐震補強

耐震補強は鉄骨ブレースの設置と耐震壁を組み合わせで実施された。ブレースを校舎南側に設置して採光と眺望を確保し、耐震壁が校舎北側の廊下部分に集中して設置された。

○新たな教育内容方法への対応

教室と廊下の間仕切壁を撤去して教室をオープン化し、ワーキングスペースが設置された。2階・3階はこれまで普通教室が5教室ずつあったが、両端と中央の3つが教室として残された。それらの間に挟まれる、これまで教室だった部分はオープンな共用空間となり、談話コーナーやベンチ・ロッカー用のスペースに用途が変更された。また、相談室や更衣室となる小部屋が設けられた。

これまで特別教室や職員室として使っていた部屋に可動間仕切壁が設置され、新たな教育内容・方法に対応できる多目的室へと整備された。多目的室は2・3階に1室ずつ整備された。

○地域開放などへの対応

将来の地域開放に対応できるように、それまで最上階にあった図書室およびコンピュータ室を1階に移転し、図書・コンピュータ室として一体化された。さらに、隣接して開放用玄関が増築されることで利用・管理しやすい計画とした。

スロープ・エレベーター・手摺が設置された。エレベーターシャフトは校舎北東の角に増築されている。トイレは全て改修し、特に地域開放で利用する箇所はオストメイトに対応している。



児童用昇降口
(地域開放時はシャッターで区画)



地域開放用玄関

○太陽光発電設備の設置

屋上に30kWの太陽光発電装置が設置された。発電量や太陽光発電装置の説明が、昇降口に設置されたモニターに常時表示され、環境教育の教材として活用されている。



太陽光発電装置



昇降口にある太陽光発電モニター

4. 成果と課題

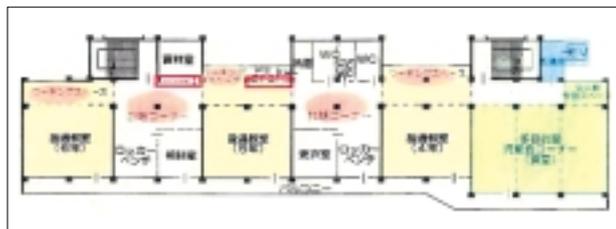
複数の事業が同時に効率よく組み合わせて実施された。関係者間の綿密な連携のおかげで、工事期間が短いにもかかわらず、全フロアを対象とした大規模工事を行うことができた。

普通教室をオープン化することで開放的な明るい空間が創出され、教室を大幅に再配置したことで多様な教育形態、地域利用に対応可能となった。教室と廊下の間を可動間仕切りで仕切れることもできるので、現在は暖房の必要な冬季は間仕切りを閉じ、夏季はオープンにしている。このように季節に合わせた使い方も可能である。

管理諸室、特に職員室が2階から1階に移ったことで、来校者の確認や児童の校庭での活動が把握しやすくなった。



3階 平面図（改修前）



3階 平面図（改修後）